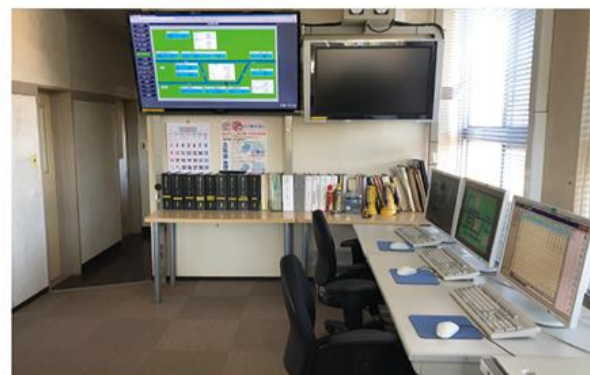


ダムの管理概要

ダムの管理は、洪水時における流量調節を必要とするため、静岡県が主体となり行っています。洪水時には、富士農林事務所職員が大倉川農地防災ダム管理事務所へ登庁し、対応しています。

ダム管理は、迅速性・的確性・効率性が求められるため、ダムの流況を把握するための水位観測局9局、雨量観測局3局を設置し、常に観測を行っています。洪水時には芝川及び大倉川の治水にその威力を発揮しています。



情報管理システム
(流域の降水量・流量・水位の情報把握や、降水量等から分流量・放流量を算定する)



操作卓(ゲートの開閉などを行う)

通常時の維持管理

日常点検として、管理人1名が管理機器の日常点検や、下流警報局の巡視を行っています。また、専門業者の定期点検により機器の老朽化や破損が判明した場合は、修繕工事を実施し、ダム機能の維持に努めています。

洪水時の管理

年間を通し、富士農林事務所の担当職員2名～3名が当番者として、警戒しています。また、洪水に対応する必要が生じた場合、第3配備体制となり、富士農林事務所の職員と富士宮市の職員が配備についています。

洪水時の管理

配備体制	要因	配備要員
第1配備	静岡気象台からの予報で、大雨または洪水注意報が発令されたとき。	2名
第2配備	静岡気象台からの予報で、大雨または洪水警報が発令されるか、その他洪水が予想されるとき。	3名
第3配備	横手沢地点流量が48m ³ /sに達するか、安居山頭首工地点流量が116m ³ /sに達するか、その他洪水が予想されるとき。	21名

過去最大の洪水実績

(平成23年9月19日～22日 台風15号)

1 配備体制

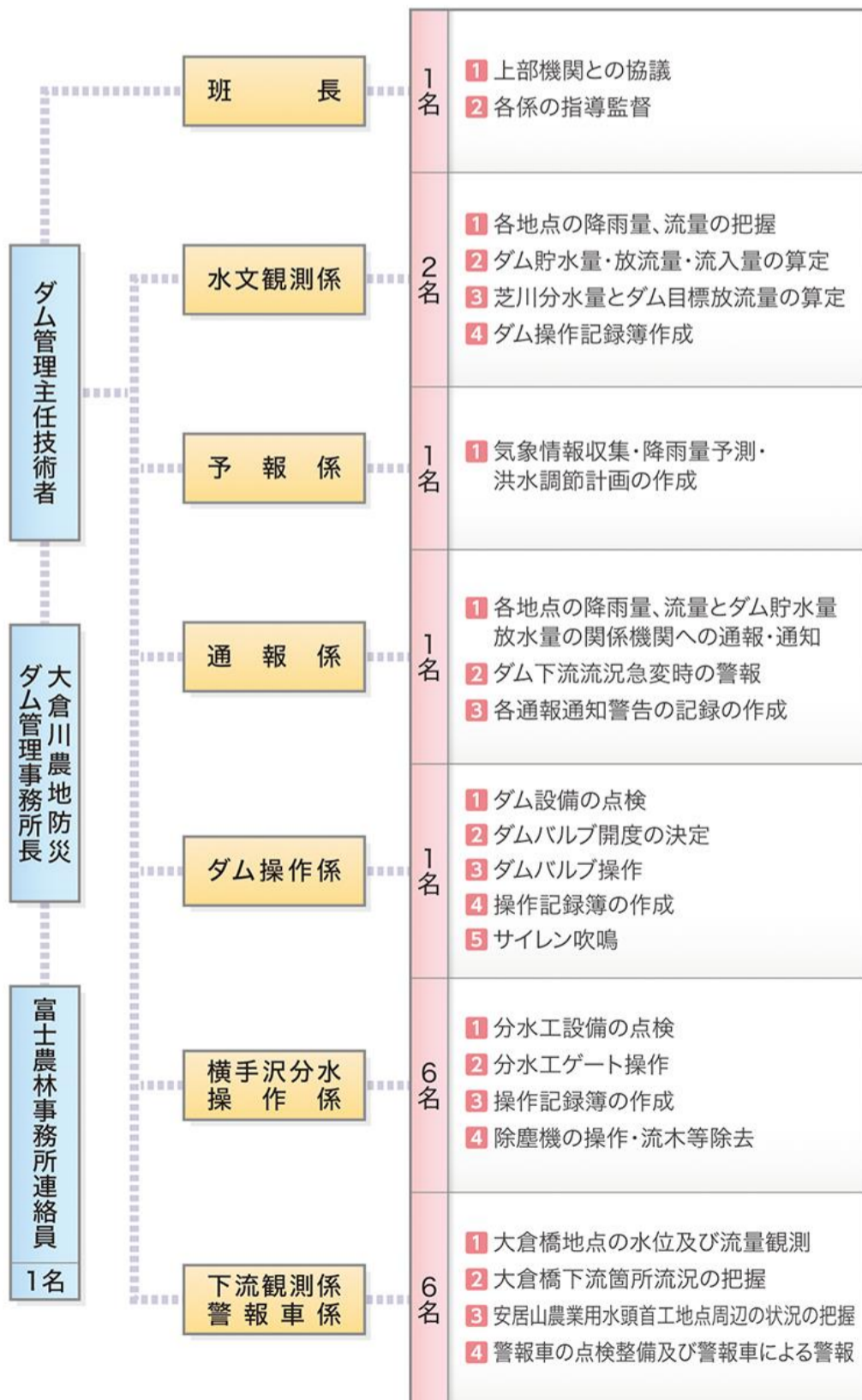
配備体制	配備時間
第1配備	19日 22:38 ~
第2配備	20日 0:53 ~
第3配備	21日 13:30 ~ 22日 0:00

2 雨量

(mm)	日	時間	4時間	備考
計画	320	57	179	(1/50確立)
実績	479	61	192	累計 659

3 流況と調節量

	ダム	横手	安居山	ダム貯水量
計画洪水量	192.0m ³ /s	241.0m ³ /s	580.0m ³ /s	205万m ³
実績洪水量	237.0m ³ /s	401.0m ³ /s	440.9m ³ /s	180万m ³ (貯水率88%)



大倉川農地防災ダム概要図

ダムの特徴

芝川からの分流地点(横手沢)とダム地点に、それぞれゲート及びバルブを設置し、2ヶ所で洪水を調節している。

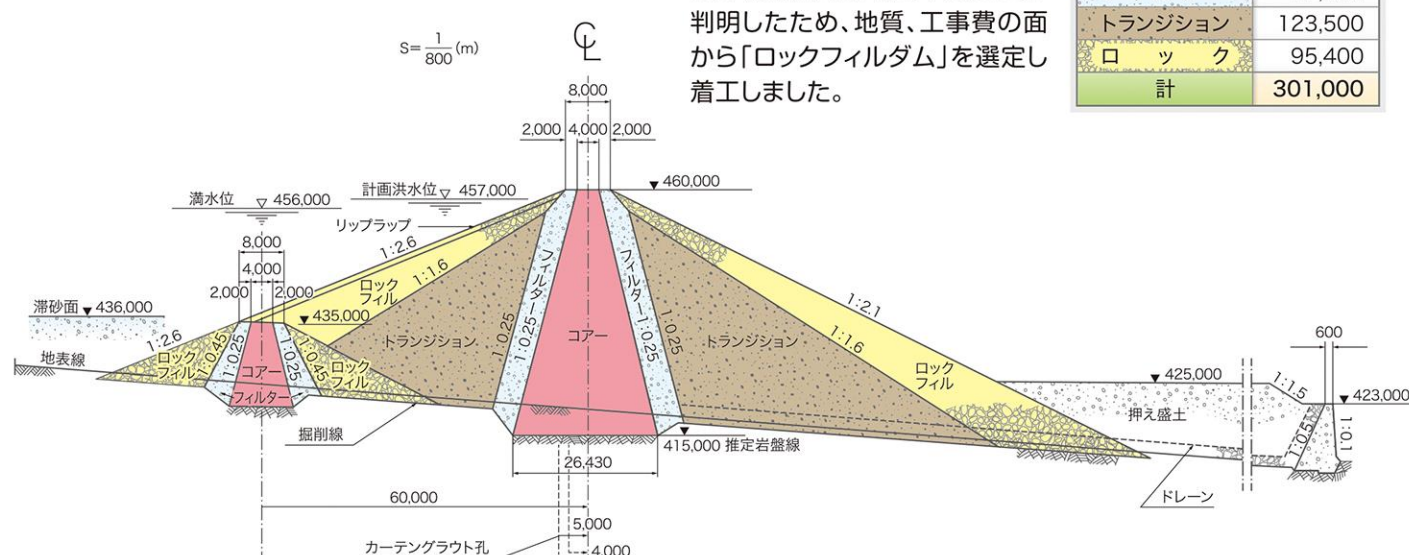
ダムの諸元

ダム所在地	富士宮市精進川字印野2416				
基礎岩盤	第3紀系岩通称石岳層、天子層				
型式	中心コア型、ロックフィルダム	堤高	45.0m	堤長	152.0m
傾斜度	上流面 1:2.6 下流面 1:2.1	堤体積	301,000m ³		
満水面積	18.0ha	有効貯水量	2,050,000m ³	集水面積	直接 12.6km ² 間接 45.0km ²
調節方式	トンネル内バルブ調整(ホロージェットバルブ2門)				
放水水量	1号バルブ φ1,450m/m 最大35m ³ /s 2号バルブ φ1,700m/m 最大50m ³ /s				
余水吐型式	越流側溝式				
計画洪水量	設計洪水量 235.0m ³ /s 異常洪水量 363.0m ³ /s				
事業費	3,019,000千円				

ダム建設工事の経過

昭和39年度~40年度	調査・計画作業を実施する。
昭和41年度	県営農地防災ダム建設事業として採択決定。
昭和44年度	ダム本体工事に着手する。
昭和45年度	ダム基礎工を施工する。
昭和50年度	横手沢分流工事を着手する。
昭和55年度	ダム漏水試験終了し、ダム建設事業を完了する。

ダムの断面図(ロックフィルダム)



ダム完成後の主な施設修繕事業の経過

昭和61年度~平成元年度	県営ため池等整備事業により、流木に対する施設ダム管理施設の設置を行う。(総事業費 136,208千円)
平成5年度~8年度	県営ため池等整備事業により、水文観測警報施設の更新を行う。(総事業費 508,300千円)
平成24年度~29年度	県営の農地防災ダム事業により、気象観測通信設備の更新を行う。(総事業費 427,616千円)

